

デザインの現場

DESIGNERS' WORKSHOP

隔月刊

vol.27 no.170

2010

4

Apr.

職人 デザインを支える

印刷／製本／模型／用紙開発
製版／活版／レタッチ／会場施工
タイポグラフィ／什器製作／アクリル
美術製作／メリヤス／合板／家具
ホウロウ／南部鉄／漆／ガラス
建具／カーボン素材／和紙
エポキシ樹脂／イス張り etc.

深澤直人 現代のものづくり
田中一光を支えた人々
エンツォ・マリー
全国職人ワークショップ・
地場産マップ

特別記事

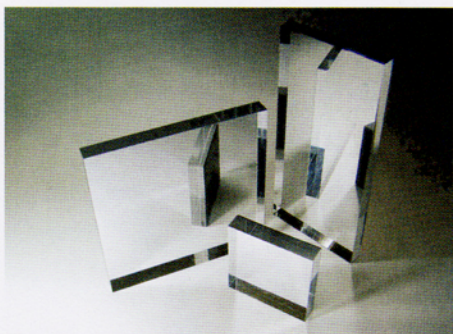
セキユリヲ in Sweden
キルト工芸の挑戦

求人情報サイトOPEN!
www.bijutsu.co.jp/dezagen

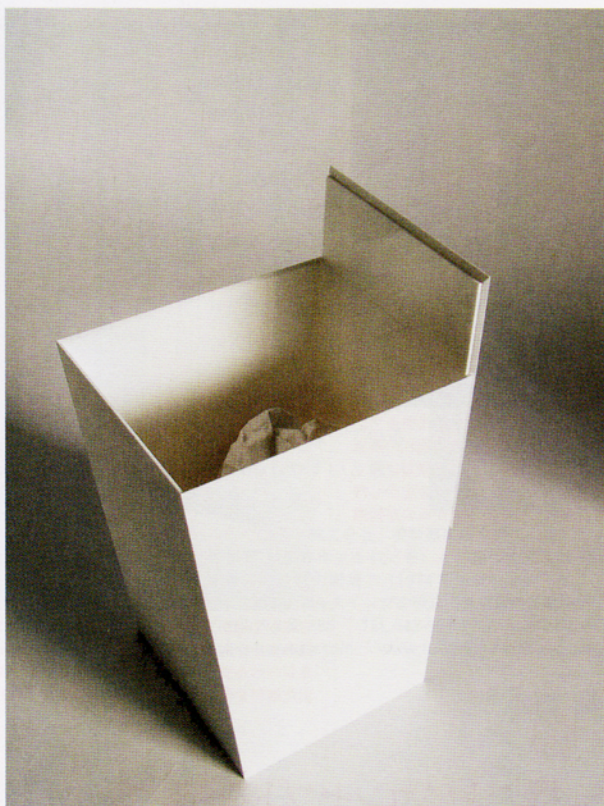
酒井俊彦

推薦

エアフレーム 寺田俊介



鏡「ディテクト」。25mmの厚さで、アクリルのボリューム感を引き立たせる。自立タイプ（写真）と、壁掛けタイプの2種がある

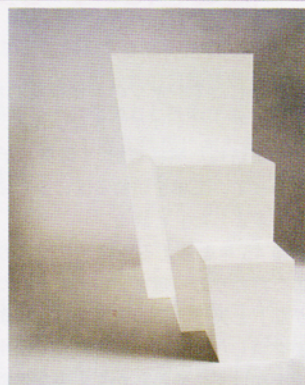


「イディオム」シリーズのゴミ箱。3種類のサイズあり。閉じている時は四角いアクリルの塊に見えるイディオムのシリーズでは他にティッシュボックス、名刺ケース、トイレットペーパーホルダーが出ている

精度が高くなければ成立しない

「蓋の開閉機構の精度を見せてもらった時鳥肌が立ちました」と酒井俊彦が言う、「イディオム・ダストボックス」。蓋が閉じている時はどこが空ののだろうかと思うほど、面と面がぴったりと重なった箱に見える。上面の蓋を後ろにスライドさせ、止まったところで後ろに倒すと、蓋の板の二重になった部分が後ろの面に引っかかり、吸い付いたかのように直立する。一連の動きは滑らかで、無駄がない。精度の高い処理でのみ可能になるしくみだ。エアフレームのオリジナル商品は、重厚感や浮遊感といったアクリル独特の魅力をぐっと全面に引き出している。「弊社のオリジナル商品に関しては精度が高くなければ成立しないものがほとんどなので、そこを見て頂きたいです。ほぼ全ての作業が手加工です。私たちにはそれを手加工に見せない技術があります。また、『技術＝気持ち』。クオリティを追求し、できるまでとことんやる、こうした気持ちの部分も私たちの特徴といえると思います」

エアフレームの代表寺田俊介を含め3名の社員それぞれがデザイン、制作、営業まで手がけ、外部デザイナーのアイデアを理解し、エンドユーザーのニーズも組む能力を持つ。これもまたエアフレームの特徴だろう。

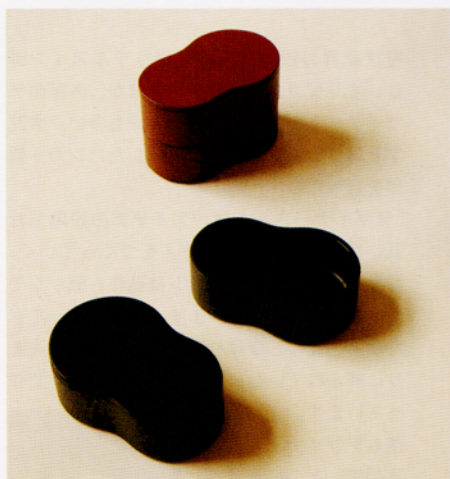


寺田俊介 エアフレーム代表。
2004年に設立。アクリルを主体としたインテリア製品の製造、販売及び、インテリア、グラフィック、プロダクトデザインを手がける。オリジナル製品はヤマギワ、リビング・モティーフなど主にインテリアショップで展開 | 静岡県浜松市東区小池町 1410 | TEL. 053-466-5291 | info@air-frame.com | www.air-frame.com



輪島キリモト・桐本木工所 桐本泰一

小泉 誠
推薦



小泉誠がデザインした「makiji lunch box」(左)と「makiji mug」。輪島で採れる珪藻土を焼き、粉末にしたものを漆に混ぜている。最新作のこの2アイテムではもっとカジュアルに使えるように、という配慮から、あえて光沢仕上げにせず、若干粗い仕上げにしている



桐本泰一 輪島キリモト・桐本木工所の代表補佐。漆器小物、家具などを総合創作工房を目指す。2004年「輪島キリモト」開店。09年「うるしの事務室・東京工房」開設 | 石川県輪島市杉平町成坪 32 | TEL.0768-22-0842 | houkiji@big.or.jp | www.kirimoto.net

「桐本の製品の中で最も特徴的なのは、独自に開発した蒔地技法の商品です。金属スプーンを使ってもキズが付かず、食の和洋を問わずいろんな場で使えるものになっています」と言うのは輪島キリモト・桐本木工所の代表補佐を務める桐本泰一。彼は漆器木地業の家に生まれ、木地の弟子修行も経ているが、彼

の役割はプロデューサーであり、「漆の伝道師」と小泉誠が表す PR マンである。彼の存在があつてこそ、小泉を始め多くのデザイナーとの共同制作が可能になり、新しい発想の漆器が生まれている。また直接エンドユーザーの声を聞き商品に反映させる柔軟さも持つ。

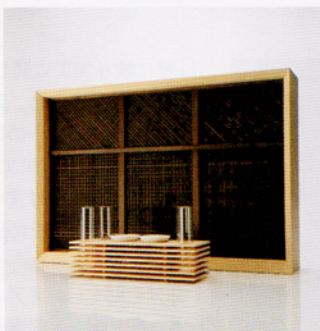
栄建具工芸 横田栄一

酒井俊彦
推薦

中村塗装工業所 なかむらしゅうへい

長坂 常
推薦

酒井俊彦デザイン神棚のシリーズより「三祀御社」と神具台の組み合わせ。三祀御社は木曾檜と、長年溶岩泥流に埋もれ、独特の色合いを出す神代桂を使用。問い合わせ＝神宮司神棚舎 (jinguji-kami danasha.net)



組子は、釘を使わず、細い木のパーツを組み立てていく技法で、身近なものでは障子や欄間に見られる。酒井俊彦が神棚をデザインするにあたり、モチーフとして選んだ宇治上神社。この正面の組子をつくれる職人を探し、行き着いたのが組子業界の第一人者、横田栄一だった。「デザイナーの希望を最大に取り入れながら、持っている技術を生かす。建具製作の組子細工という仕事のエリアを超えるすべてが新しい取り組みでした」卓越した技術を持ちながら柔軟に新しいものに取り組む。

横田栄一 1941年長野県生まれ。栄建具工芸代表。57年より三井建具店、建具工芸研究所を経て、67年栄建具工芸を設立。全国伝統建具技術保存会会長。99年黄綬褒章受章。受賞歴多数 | 長野県長野市篠ノ井横田 615 | TEL.026-292-1593



あえてデコボコなものを見つけ、わざわざフラットにしたエゴキシ樹脂のテーブル「Raftered」(問い合わせ＝シボネ青山店、4月発売予定。価格未定)。デザインは長坂常

スキーマ建築計画の長坂常が建築のリノベーションでは8割以上、塗装を依頼しているのが中村塗装工業所のなかむらしゅうへい。「塗装には、意匠と機能の2つの役割があり、特殊な塗装方法には、感性と技術の両方が求められます。どちらが大事ということではなく、意匠と機能、感性と技術の間を行ったり来たりしながら、塗装について考えたい」と語るなかむら。デザインの企画、空間のコンセプトづくりの段階からかわかることで、既存の塗装技術や材料を斬新につかうことを可能にしている。

なかむらしゅうへい 1975年大阪生まれ。宝塚造形芸術大学絵画コース卒。2003年より中村塗装工業所として活動開始 | 東京都目黒区上目黒 2-30-6 | paintandpaint@jcom.home.ne.jp | paintsn.exblog.jp

